

全身型若年性特発性関節炎患者における、生物学的製剤（Tosilizumab,アクテムラ®）  
使用の際の Hypersensitivity Reactions に関する調査の公表について

平成 29 年 3 月

感染・免疫科では、小児リウマチ性疾患をもつ多くの患者さまを診療させていただいている経験を基に、国内における診断や治療に関する問題点など様々な情報を発信しています。

日本では全身型若年性特発性関節炎（sJIA）に対して Tosilizumab のみが保険適応となっております。sJIA の患者さまの中には、投与時反応とアレルギー反応を含む反応である Hypersensitivity Reactions（HSR）により Tosilizumab の使用を断念せざるをえない方がいらっしゃいます。今回、Tosilizumab を用いて当科で加療している sJIA の患者さまの臨床情報と採血データをもとに、HSR のリスク因子に関する調査研究を行いました。今後、論文での公表を予定しておりますので、お知らせ致します。

調査の対象となるのは、2004年7月から2015年12月の期間に当科でsJIAに対してTCZを導入した患者さま40人です。一部の患者様で、通常診療で使用した血液の残りをもちいてサイトカイン（炎症を誘導するタンパク質：疾患の活動性を反映）を測定しました。

HSR リスク因子の評価することは、TCZ を安全に使用する、または HSR を予測して診療にあたる一助になると考えています。一方で、症例数は少なく他施設を含めた大規模な検討が必要と考えます。

本研究には、個人を特定できるような情報の開示は含まれていませんが、調査対象に該当する患者さまを含め、公表内容についてお問い合わせや本研究に同意いただけない場合の際には以下までご連絡をお願い致します。

あいち小児保健医療総合センター  
研究責任者 感染・免疫科 岩田直美  
TEL：0562-43-0500(代表)